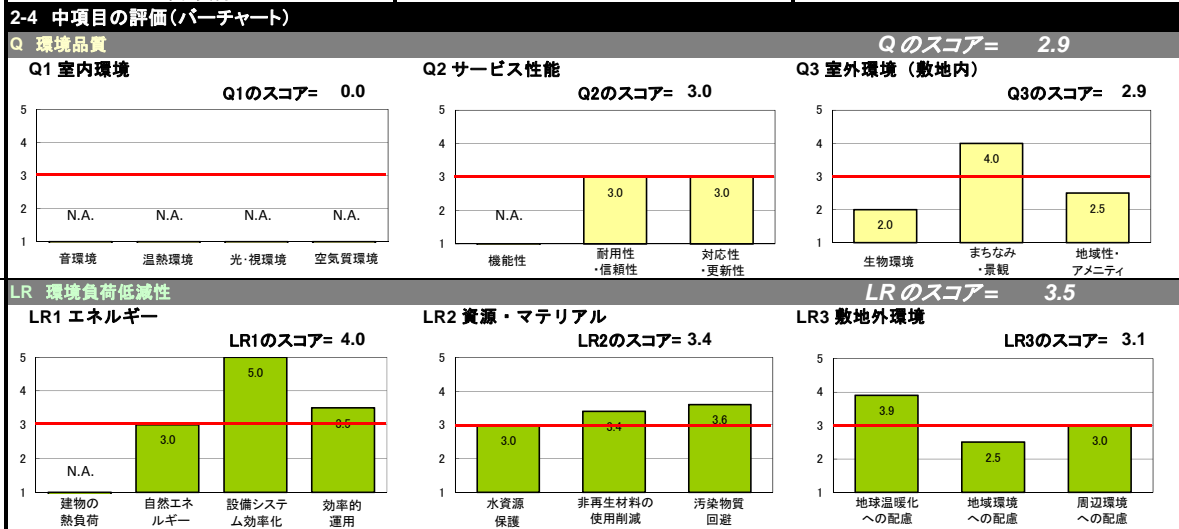
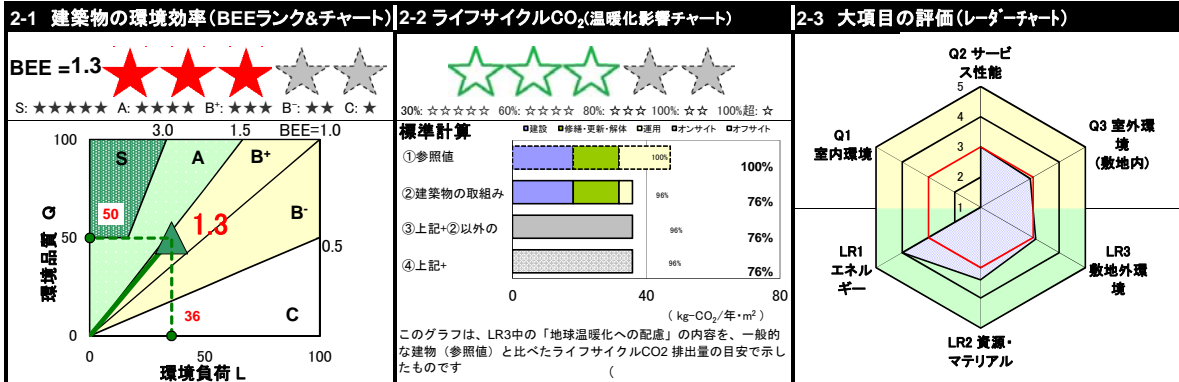


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社中村精機音羽製作所 宮迫	階数	地上2F
建設地	西尾市吉良町宮迫榎木114番始め22	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	70 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	6,000 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2015年2月27日
敷地面積	17,473.17 m <sup>2</sup>	作成者	苅谷 成進
建築面積	5,217.60 m <sup>2</sup>	確認日	2015年2月28日
延床面積	5,306.21 m <sup>2</sup>	確認者	細川 敦弘



### 3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) <b>36.0 %</b> 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) <b>0.0 %</b>
<b>3.9</b>	<b>2.0</b>	
②資源の有効活用	④地域材の活用	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし
<b>3.1</b>	<b>1.0</b>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
  - LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
  - Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
  - LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
  - Q-3 1 生物環境の保全と創出
  - ④地域材の活用
  - Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$





2.4 信頼性				3.6	0.19			
1	空調・換気設備		自家発電機を備えている	5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備		通信手段の多様化を図り精密機器の地下空間への設置を避けて	4.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.48			3.0
3.1 空間のゆとり				3.2	0.31			
1	階高のゆとり			2.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ		(271.47m*56.04m)/5200㎡=0.06	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1	空調配管の更新性			3.0	0.17			
2	給排水管の更新性			3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.9
1 生物環境の保全と創出		●	③	2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	建物の色彩や植栽などを考慮し、街並との調和に配慮している	4.0	0.40		4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④	2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.5
LR1 エネルギー				-	0.40			4.0
1 建築物の熱負荷抑制					-			-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			ERR=65.9%	5.0	0.43			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.5	0.29			3.5
4.1	モニタリング		消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性が確認できている	4.0	0.50			
4.2	運用管理体制			3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.4
1 水資源保護				3.0	0.15			3.0
1.1 節水				3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			3.4
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	再生路盤材(RC-40)を基礎下、土間下に採用している。	3.0	0.21		
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●	②	躯体と仕上げ材、仕上げ材と設備が分別可能になっている	5.0	0.25		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			
1	消火剤			-	-			
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材を使用していない	5.0	0.50			
3	冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出量が67%	3.9	0.33		3.9
2 地域環境への配慮				2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			
1	雨水排水負荷低減	●		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制	●		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	●		4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		駐車・駐輪スペース及び駐車施設の確保を行っている	3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1	騒音	●		3.0	0.33			
2	振動	●		3.0	0.33			
3	悪臭			3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1	風害の抑制			3.0	0.70			
2	砂塵の抑制			1.0	-			
3	日照障害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

株式会社中村精機音羽製作所 宮迫第二工場

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.7\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 サービス性能、エネルギー、資源・材料に配慮しつつ、周囲の景観にも配慮した設計となるように心がけました。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 工場のライン構成の将来予測される変更に対応でき、かつ日常のメンテナンスのしやすさを最重要事項として配慮しています。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 緑豊かな里山の中に立地する工場である為、特に景観については建設以前の景観をなるべく維持するように配慮しています。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 平面的に広大な建物の為、窓をなるべく大きくとれるようにし、極力日中の電気照明を軽減するよう配慮しています。
LR2 資源・材料	注) 「LR2 資源・材料」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水、リサイクル材の使用等に配慮しています。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 矢作川水系への排水における水質汚濁防止基準に配慮しています。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。